

Chapter 1

日本のなかの九州、アジアのなかの九州

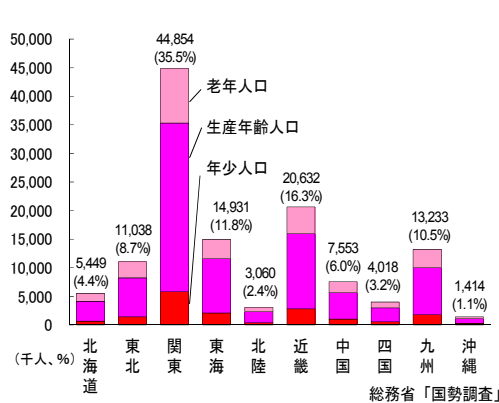
日本のなかの九州：わが国の「1割経済」

九州は日本列島の南西部に位置し、九州島と周辺の島々からなり、福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島島の7県で構成されます。九州は、本州と関門海峡で隔てられた独立した島々で構成され、域内の相互依存関係が強い地域となっています。また、他の地方ブロックに比べて東京経済圏からの自立度が高い点も特徴のひとつです。

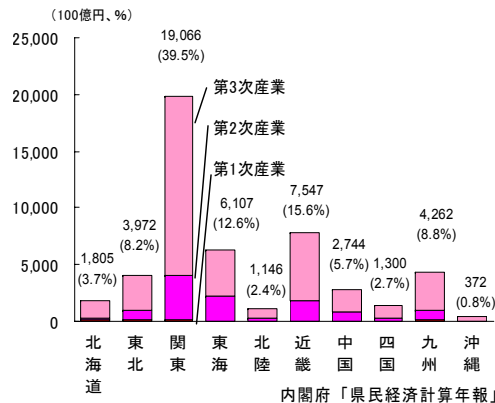
九州の総面積は4万2,191k m²、総人口は1,323万人（2010年10月）で、全国の約10.5%を占めています。域内総生産（GDP）は42.6兆円（2009年度）で全国の約8.8%を占め、電力消費量、小売業年間販売額、地方自治体財政規模などの主要経済指標も全国の1割前後です。このため、九州はわが国の1割経済といわれます。

地方ブロック別にみると、人口やGDPは関東、近畿、東海の3大都市圏に次ぐ規模で、地方圏では最も規模が大きい地域です。2009年度の九州のGDPをドル換算すると4,555億USドルで、4,587億USドル（2010年）のスウェーデン、4,693億USドル（2010年）のベルギーに匹敵する経済規模を有しています。

ブロック別人口構成、全国シェア（2010年）



ブロック別名目GDP、全国シェア（2009年度）



アジアのなかの九州：東アジアへのゲートウェイ

九州は韓国や中国と地理的に近く、東アジアへのゲートウェイとなっています。なかでも福岡市は、首都・東京から約1,000km離れている一方、韓国の釜山まで約200km、ソウルまで約600km、中国の上海まで約1,000kmと、東アジアの主要都市と近い距離にあります。

九州内の空港からは、アジアの主要都市を中心に28の国際路線が張り巡らされ、九州の港湾には101航路の外貨コンテナ定期船が就航しているなど、アジアとの交易・交流環境が充実しています。

このような近接性から、アジアとは経済的なつながりも強い地域です。例えば2001～2010年の九州地場企業の海外進出件数657件のうち、552件(84.0%)はアジアが占めており、2011年の九州の輸出総額に占める韓国の比率は12.7%で、全国より4.7ポイント高くなっています。また、2011年の九州への入国外国人数も、アジア地域が92.9%と大半を占めています。さらに、トヨタ自動車など日本を代表する企業が、中国と日本との新たな物流結節点として博多港や北九州港を活用する動きが相次いでいます。

